

ユニット名	島根大学生生活協同組合住まい事業部
代表者	島根大学生生活協同組合住まい事業部 一ノ宮祥吉都
所属人数	6名
達成に資するSDGs目標	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナースhipで目標を達成しよう
活動概要	本企画は衣替えの季節にあわせて、島根大学を利用している方々から不要になった衣類を回収し、それをまず“身近”で必要としている人に届けるという活動である。また、他人が着ていた服を着ることに抵抗のある人への配慮として、島根大学内で衣類を直接渡すのではなく、NPO法人「セカンドライフ」を通じて、衣類に困っている“世界”の人々にも衣類を届けるという仕組みも整備している。”身近”の人に届けきれなかった衣類についても「セカンドライフ」にお渡しすることで衣類を無駄にすることないように努めた。 本企画への参画は、島根大学を利用している方々が今持っている服が本当に自分に必要なものかを見直し、必要なものだけを選び取る習慣を身につける契機になると考えている。 また、この活動を推進することで、衣類の再利用や資源消費の抑制が期待でき、衣服という身近なものを通じた国際協力や地域貢献の契機づくりにもつながる。さらに、この取り組みが島根大学生協だけでなく、他の大学生協、地域にも広がっていくことで、より多くの人々に社会貢献への意識改革を促すことができると考える。
主な連携先 (予定を含む)	NPO法人セカンドライフ 学生EMS委員会
成果物の公表予定、 社会への波及効果	この活動は以下のSDGsの達成に貢献している。 目標1「貧困をなくそう」 発展途上国では、5人に1人が1日1.90ドル未満で生活しており、必要な衣服を買うのも難しい状況にある。このような人々に衣類を届けることで、少しでも衣服購入の負担を減らすことができる。また、一般的な人々の生活に必要とされる、衣・食・住のうち「衣」をカバーすることで、「食」「住」といった貧困のその他の諸要因に対しても注力しやすくなるのではないかと考えている。 目標3「すべての人に健康と福祉を」 衣服の着用には、ハマダラカによるマラリア感染を防いだり、身体の損傷から身を守ったりする効果がある。特に免疫が十分でない子どもには衣類の提供が重要であり、活動が広がれば、子ども用衣類の回収が進み、感染症予防や怪我防止、さらには健康問題の対処にもつながっていく。 目標10「人や国の不平等をなくそう」 貧困による不平等の解消はもちろん、性別による制限もなく、誰もが自由に衣類を選び受け取れる環境が生まれることで、衣類という一つの要素から民族や宗教、人種といった垣根を超えた互いの文化を尊重しあう好循環的な社会の形成が可能になると考える。世界には、毎日の着る服に困っている人だけでなく、それにより学校等で経済状況が露見したという理由から差別的な扱いを受けている人もいる。衣類を集める活動は、こういった衣類がないという不平等だけでなく衣類を要因とする差別が身近に存在しているということをより多くの人に認知してもらうことに繋がるだけでなく、その解決の一助にも成りうる。 目標12「つくる責任 つかう責任」 衣類の製造には多くの資源が必要であり、サイズが合わなくなったり汚れが目立ったりしてもすぐに捨てるのではなく、回収・再利用することで資源を有効に活用することができる。本企画は、自分には不要でも“他の人にとっては必要”な衣類として再利用の可能性を秘めている。また、本企画を通して“再利用の意識”を衣類以外の身近なものに対しても抱いてもらえるようになれば、持続可能な行動を心掛ける人が増加し、大量消費大量生産の社会からの脱却も可能となる。 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」 本企画を通し衣類を回収・お渡しすることで、不要になった衣類が他の人の役に立つという意識を育むことのみならず、世界中の人と助け合う信頼の構築にもつながる。「服一枚で社会貢献ができる」という思いが広がれば、より多くの人がこの活動に関わり、国際協力の輪が広がっていくと考える。